

平成 29 年度 社会参画実習 クラス別発表

ワークショップの目的

- 異分野の人との協働力・社会人基礎力を向上
 - 竹田 研究室（経営経済学部）
 - 卓 研究室（経営経済学部）
 - 濱田 研究室（工学部）
- 知識を活用して課題解決することができる
 - 自治体担当者からのレクチャをはじめ、図書館やインターネット、現地での調査、ヒアリングなどを通して知識を蓄積した。メンバの役割にて課題解決のための提案を行う。
 - 提案はプレゼン資料とレジュメの 2 種を用い、グループごとに発表する。
- 地域社会の一員として主体的に社会に参画できる
 - 自ら取り組むテーマの決定と、テーマに対する主体的な活動により社会へ参画する。
 - 各種問題の解決に対する具体的な取り組み方法の提案
 - 5 W1H を意識した方法の提示

本日の内容

- 成果発表会 教室 教室 18C41 13:00 より
持ち時間 各グループ 5分～8分程度
発表順番 以下のとおり

自転車問題 自転車パトロール隊
子育て支援 たけし軍団
違反が引き起こす自転車事故の統計と対策 サイクリング
若年層の就業問題 にっちー
放置自転車の処分方法 チャリ卍
学童保育の現状と課題 さくら
ゴミ分別ポスター T・T
ゴミ捨てに関するマナーと減量・リサイクル ごみ減量



- 評価手順
 - 1 ポートフォリオ 13 ページを用いて自グループ以外の発表の評価を評価基準に沿って評価する。
 - 2 WEB サイト（ <https://goo.gl/forms/jQn7CyGu7d5xsCuX2> ）にて総合評価の上位 3 位について入力、集計
 - 3 担当教員間の合議（ 2 も踏まえ ）にて代表チームを選出します。

・振り返り（ PD C A）

これまでの活動を振り返り、グループでの反省と改善について話し合う。

- 計画、進行
- 取組み、提案内容
- 作成した資料

グループでの反省が終了したら、個人も同様に反省と改善について考察を行う

反省と改善を踏まえ、活動報告の WEB 入力および過去分のポートフォリオ記入を完了させる。

自転車問題（自転車パトロール隊）

メンバー（7人）

工学部 情報メディア学科 富高康義

経営経済学科 山本啓太 松下蓮矢 上田斗真 久保駿斗 蓮池寛斗 上野志信

(1) はじめに

現在問題になっている自転車のマナーの改善・交通安全の問題についての改善策の提案。

(2) 収集した情報

- ・交通事故による罰金、罰則について
- ・今現在の自転車事故についての詳細

(3) 着目した問題点

- ・児童のヘルメット未着用問題
- ・自転車一時停止無視禁止
- ・スマホ（ながら運転）禁止
- ・イヤホン・ヘッドホン禁止
- ・自転車も一方通行無視禁止
- ・右側通行禁止 自転車は歩道を走るの禁止（標識に従う）
- ・自転車も飲酒運転禁止
- ・自転車の2台以上並走禁止
- ・傘さし運転禁止
- ・夜の無灯火運転禁止

(4) 具体的な提案内容と実施方法

- ・ヘルメット事故は、小学校や中学校など学校や校外で声かけをする。
- ・自転車の一時停止は、停止線付近を警察パトロール区間に追加する。
- ・スマホ（ながら運転）傘さし運転については、校内での声かけなどの意識づけの習慣をつけるための活動をする。運転手がしっかり意識づける習慣をつける。
- ・右側通行禁止についても、校外で声かけなどの意識づけの習慣を身につけるための活動をする。
- ・自転車の歩道走行についても、声かけなどの活動を実施する。
- ・自転車の二台並走禁止については、スマホを使いながらの運転や傘さし運転と同様に事故につながるが多いことがわかった。自転車の運転手がしっかり意識づけ気をつける必要が十分にある。

(5) まとめ（結論）

- ・自転車問題は、結論でいうと、運転手の意識づける習慣がついているか、ついていないかによって事故が起きるか、起きないかが決まるということが調査中に考えられた。
- ・車と自転車は別の乗り物と考える人が多いことも調べているうちにわかった。自転車は原動機付き自動車（原付）と一緒に軽車両に分類され、決まりごとは車と同様であることを知らない人が多いので、声かけなどをし、正しい交通ルールを知ることが必要だと考える。
- ・声かけなどは人件費などがかかるため、大がかりな計画などが必要である。そのためポスターなどを活用し、少しでも運転手に意識をつけられるような工夫が必要であることがこれから大切であり、重要であると考えます。

子育て支援

チーム名 たけし軍団

情報メディア学科 中尾聖純・中嶋太一・高木結萌

経営経済学科 島健・立川歌蘭・野々下優・谷川由希

1. はじめに

大分県は待機児童数ワースト8位という結果である。しかし、意外にも周りには子育てを支援する施設や活動がたくさんある。私たちは、なぜそれらの情報が共有できていないのか調査した。

2. 収集した情報及び着目した問題点

出張講義や取材、インターネットを利用して情報収集を行い、以下の4つに注目。

- ① 市内で行われている子育て支援について知らない人が多い
- ② naana^{※1}の認知度が広がっていない
- ③ 知っている人が知らない人に伝える機会がない
- ④ ご近所付き合いが少ない

PR 不足

交流の場が少ない

3. 具体的な提案内容

- ① SNS で活動広告を増やす
- ② 回覧板で naana の広告を挟む
※協力お願いとして「大分市の広報部」を考えている

4. 実施方法

- ① 現在開設されている naana の Twitter をより活発にする
例) イベント開催日の報告及び様子を掲載
放課後児童指導員^{※2}の求人願い
地域の人との交流の呼びかけ etc
- ② 回覧板の広告をつくる際に古紙を再利用する ⇒ 低コスト
すぐに検索できるように QR コードを添付

5. 大在こどもルームの訪問

11月13日に行われた出張講義の際に配布された《子育て支援ガイド》
実際に掲載された大在こどもルームを訪問

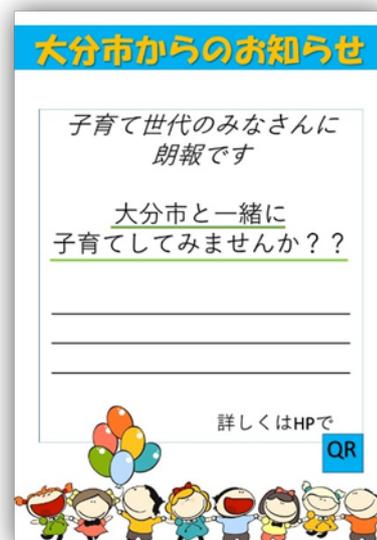


図 回覧板の広告ちらし例

6. まとめ

子育て支援のPR活動 ⇒ 地域交流の増加 + 子育ての孤立化解消

《付録》

※1…子育てに役立つ行政情報と民間情報を合わせて発信することを目的に開設された大分市のサイト
大分市子育て応援サイト naana : (<http://www.naana-oita.jp/>)

※2…保育士、小学校教諭などの資格を持っている方、高卒以上で二年以上児童福祉事業に従事している方などが、都道府県が行う研修を受講することで資格を取得。また、アルバイトとして活用することもできる。

学童保育.com : (<http://www.gakudou-hoiku.com/staff/>)

違反が引き起こす自転車事故の統計と対策

チーム名: サイクリング

情報メディア学科: 野見山翔五 首藤大輔

経営経済学科: 池田拓未 平良桐哉 亀谷孝晟 宮國航太

➤ はじめに

- ・自転車事故のルールやマナー、対策を考え情報収集を行う。
- ・県内で発生している自転車事故の事例、件数、発生した原因などを調査し、課題や対策を考えた。

➤ 収集した情報

- 事故の発生件数は、減少傾向にある。
- 事故件数のうち安全不確認の件数が多い。
- 車両どうしの「出会い頭」事故が最も多い。
原因: 一時停止無視、安全不確認、右側通行

➤ 問題点

- 背景にあるもの
 - ・利用者の「自転車も車両の一種である」という意識の欠如。
 - ・自転車の交通ルール・マナーの認知度の低さ

➤ 提案内容

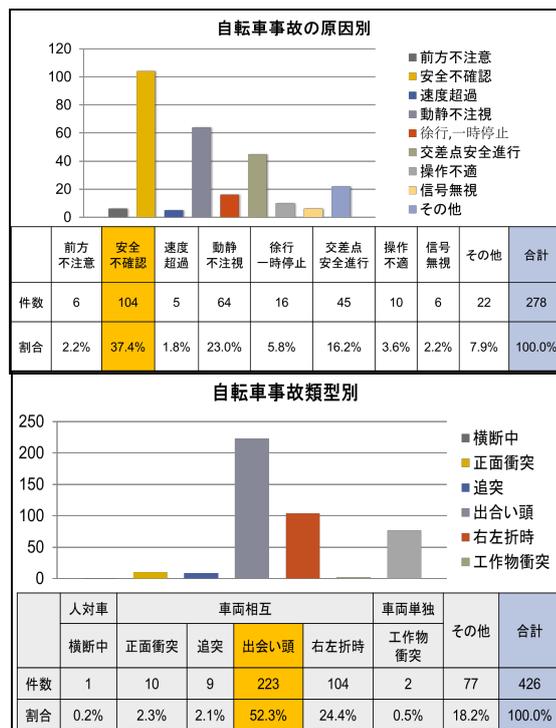
- 交通ルール・マナーの意識・認知のポスター制作
 - ・利用者の交通ルール・マナーの意識を高める。
 - ・交通ルール・マナーの認知度を上げる。
 - ・自転車事故の予防

● 工夫した点

- ・わかりやすいデザインになるように心がけた。
- ・背景や文字に明るい色を使い、字の大きさ、配置を工夫して目に留まりやすいようにした。

➤ まとめ

- ・事故や違反が起きそうな場所にポスターを貼ることを前提として制作したため、時間がかかりスケジュール管理の大切さを痛感した。
- ・自転車のルール・マナーなど知らずにやってしまった違反行為を再確認できた。



○若者の地元へのイメージ

- ・地方に魅力がないから
- ・東京が楽しいからわざわざ地元に戻らない
- ・就職先がない
- ・給料が安い

○実際は地元回帰地方就職の人気は高まっている

実は、週かつせい調査によると三菱東京 UFJ 銀行(10.6%)や日本赤十字社(10.4%)、日本郵便(8.6%)のような東京の大手会社よりも地方公務員(28.2%)や国家公務員(16%)のほうが人気が高い

○U ターン就職の魅力

自分が生まれ育った地域をより豊かにして地域で暮らす人々の幸せに貢献したいという「地元への愛」が理由で U ターン就職をする人が多い
生まれ育った土地だからこそできるいい点や改善点を踏まえた上で地域の今を豊かにし、未来を作る仕事に携わることができるのは大きなやりがいにつながる

○地元就職のメリット

- ・家族友人たちがいるから困ったときに対応できるし、人間関係をはぐくめる
- ・大手企業よりも圧倒的に仕事量が少ない。早く帰宅できる。
- ・地方には転勤がない
- ・通勤時の電車などで疲れることがない
- ・生活水準をあげることができる
- ・地域貢献に参加できる
- ・正社員として雇われやすい

○都会就職のデメリット

- ・満員電車・交通渋滞
- ・地価・物価が高い
- ・親戚と疎遠になる
- ・人間関係が希薄
- ・ブラック企業が多く存在する
- ・周りに合わせるのが疲れる

これらの地元就職のメリットをもとにパンフレット作成をする

放置自転車の処分方法

チャリ卍

情報メディア学科 土谷洗成、花山幸輝

経営経済学科 渡辺司、藤岡卓真、小牧楓、後藤麻梨子、佐々木剛

1. はじめに

私たちのチームは、大分の自転車のマナー改善を他県からヒントを得て改善につながると考え、メンバーの出身県である大分、愛媛、福岡、が行っている取り組みを参考にアイデアをまとめ、大分市都市交通対策課に提案をするという活動を行った。

2. 他県での取り組み

・愛媛

愛媛県では撤去された放置自転車の内、所有者に告知を出し半年以上経過したものは再利用可能なものに限り競争入札方式で市民に譲っている。

松山市放置自転車リサイクル競売会実績

年度	落札台数	市収入(円)	入札参加者(人)
2011	160	104万 500	704
12	142	88万 8800	570
13	153	117万 1100	678
14	126	101万 800	714
15	123	116万 4300	706

※各年度とも3回実施分の合計

※市収入は落札額合計から防犯登録費などの経費を引いた額

・福岡

縁自転車対策として、放置自転車は撤去後に保管所で保管され、自転車の所有者に返還通知書が送付される。

告示後一ヶ月間引き取り手が現れない場合は売却等の処分がされる。



自転車放置禁止区域のマーク

3. 提案内容

私たちは以上の取り組みから愛知県松山市で行われている放置自転車を競売にかけるという提案をすることにした。

4. 結論

今回の活動で、放置自転車の競売を行う際は、まず購入者が安全に利用出来るかどうかや、その手間を踏まえたうえで、人手の問題や費用の点でも行うメリットがあるかを検討する必要があると考えた。

学童保育の現状と課題

チーム名：さくら

情報メディア学科：高清水大雅、須川登夢、詫磨果歩、竹内純哉

経営経済学科：吉松佑真、入口昌樹、岩井郁薫、河野唯斗

1. はじめに

ニュースで取り上げられていた学童保育の「人手不足」に関心を持ったため、このテーマを取り上げた

2. 学童保育の現状と課題

学童保育とは、「日中保護者が家庭にいない小学生に対して授業終了後に適切な遊びや生活の場を与えて児童の健全な育成を図る保育事業の通称」である。

学童保育の現場では、現在人手不足が騒がれている。

- ・学童保育スタッフになりたいと考える人が少ない

保育の職＝「保育士」のイメージ

子育てなどで離職して保育園に戻れなかった保育士が[やむなく]なっているケースが多い

3. 課題解決の提案

私たちは大学生がアルバイト感覚でボランティアスタッフとして活動できないか提案。

大学では現在インターンがある→ハードルが高い

- アルバイト感覚で講義終わりの時間などの空き時間を利用して活動を手伝えるシステムを作ればよいのではないかと。

→大学には正式な活動として、単位習得なども含めて認めてほしい。

4. まとめ

学童保育の認知を広め、活動に協力しやすい制度を構築できれば、活動に目を向ける人が増え、問題の解消につながるのではないかと考える。

一度システムとして完成してしまえば、これから永続的に活動に協力できる人を募ることができ、恒久的な問題の解消が見込めると考えたため、このような提案をさせていただきました。

ゴミ分別ポスター

T・T

情報メディア学科 杉山雄紀・能丸祐一・城下佑之介
経営経済学科 大久保和樹・藤永隼希・仲野祐希

1. 提案のポイント

大分県のゴミの分別表が見にくかったから

2. 問題点

現在発行されているゴミ分別ポスターは細かく分けすぎている為にとっても見づらいものになってしまっている。このことが原因でゴミの分別があまりされなくなってしまったのではないかと考えられる。

3. 具体的な課題内容と実施方法

この問題を解決するためにゴミの分別表を見やすく簡潔にする必要がある。

現在発行されているゴミの分別表はゴミの種類をとっても細かく分けている為に見づらいものとなっている。ゴミの分別表のスペースを小さくまとめ開いたスペースに大分県が行っている3カット運動などの活動を載せたポスターを作製する。

4. まとめ

今回の発表に向けて私達の班が行ったのは大分県がゴミを減らす為にどのような運動や活動を行っているかについての調査、ゴミの分別表のどの部分が見づらくしているかについて話し合った。

調査した結果大分県では「食べきり・使いきり・水切り」を目標にした3切り運動を行っているということがわかった。

ゴミの分別表のどの部分が見づらくしているかについて話し合ったところこれは間違えようがないだろうと思われるゴミまで記載されており分別をやりやすくする為に表記が逆に分かりづらくしているのではないかという結論になった。

以上のことから私たちはごみの分別表をもう少しコンパクトにまとめてスペースを作りあいたところに3切り運動などの活動を載せればいいのではないかということにした。

ゴミ捨てに関するマナーと減量・リサイクル

チーム名 ごみ減量

情報メディア学科 高森

経営・経済学科 友田 服部 吉川 刃根 小柳

1. はじめに

大分市はゴミ袋の有料化により燃やせるゴミと燃やせないゴミの減量に成功しています。大分市は様々なゴミの減量活動をしており、その中でも“3きり運動”を大分市民に内容を知ってもらい進んで実践してもらうことが私たちのチームの目的です。

家庭ごみの有料化の効果（参考資料）

有料化開始後の平成26年11月から平成27年8月までと前年同時期の平成25年11月から平成26年8月までのごみ排出量を比べると...



2. 収集した情報の概要

私たちのチームでは3きり運動について調べました。この3きり運動とは、「食材は無駄なく使いきり」「おいしく残さず食べきり」「生ゴミはしっかり水きり」の3つの“きり”を組み合わせるのが3きり運動です。その中で水きりは一日40g水分減量すれば年間で3000tにもなります。

3. 着目した問題点

3きり運動が実施されていても、まだ食べられるのに廃棄されている食品が1年間で約6%あります。量に換算すると、5300tにもなり一年で1世帯約25キロにもなることが分かっています。3きり運動を知っている人が少ないのも問題点の1つだと考えました。

4. 具体的な提案内容と実施方法

私たち大学生が取り組める内容としては、実際に3きり運動をやってみることが一番大切なのではないかと考えました。私たちが3きり運動を取り組みながら、その内容を大分市の人たちに知らせて、まずは3きり運動を知ってもらうことが目標です。

実施の方法は、1年間もしくは半年の期間で3きり運動を行います。数週間では結果に信頼性がないので最低でも半年は3きり運動を取り組みます。取り組みをしている動画や実際のゴミの量などの画像を大分市のホームページやSNSで発信します。

5. まとめ

この3きり運動を正しく分別できると廃棄されている食品約6%が削減をすることができ、結果的にゴミの減量につなげることが可能と考えます。